

反対関係理論 (河上理論) における アイロニー的表現の役割と重要性

安藤裕介・権藤磨由

The importance and the function of Ironic Expressions in the Opposite Relation Theory (Kawakami Theory)

Yusuke ANDO *Mayu GONDO

[Abstract] This paper investigates the plausibility of the Kawakami theory (the opposite relation theory) in interpreting irony by using the distinction between irony and ironical expressions. Since ironical expressions play an important role in solving problems with critical opinions against the opposite relation theory, the present analysis discusses a new approach to *hiniku* which is treated as part of ironical expressions in Kawakami theory, through comparison with irony. In addition, shortcomings of the echoic mention theory proposed by Sperber and Wilson are critically discussed. Although the idea of echo provides various types of irony with interpretation, it is certain that the criterion is so wide that it causes confusion.

[Key Words] Irony, The Opposite Relation Theory, Dissimulation, Ironic Expressions, Implicature, Appearance, Reality, Blame-By-Praise, Praise-By-Blame, Hiniku, The Echoic Mention Theory, Non-Echoic, Echoic Criterion

*久留米大学大学院比較文化研究科修了

はじめに

アイロニーは、言語上に起こる様々な現象の一つで、その種類には無知を装って逆に相手の無知を悟らせるソクラテス式アイロニーを初め、観客には分かるが劇中の登場人物には分からない劇的アイロニー、そして状況のアイロニーなどがある。アイロニーの伝統的な定義として「反対関係」と「異なる関係」が挙げられる。反対関係とは話し手が表面上言っていることと伝えようとしていること、つまり含意が反対の関係であることを意味する。例えば土砂降りに遭った人が“What awful weather.”と思っているにもかかわらず、“What lovely weather.”と言ったとする。この場合、表面上言われている“What lovely weather.”と含意である“What awful weather.”は反対関係にある。それに対して、異なる関係とは、同じ状況の例で考えると“What awful weather.”を含意しながら表面では“It seems to be raining.”と言ったりするような場合、即ち表面上言われていることと含意が違うことを意味する。

本稿は、アイロニー全般を扱っていく上で、その定義として河上理論の反対関係に注目

し、河上理論におけるアイロニーとアイロニー的表現の区別を中心に、その妥当性と修正点を明確にすることを最大の目的とする。また伝統的な定義と全く異なる新しい理論で実際注目されている Sperber & Wilson によって提案された Echoic Mention (エコー言及) 理論がアイロニー解釈にとってどのような役割を果たしているかということも、その反例と共に批判的に検証していく。

1. 先行研究

1.1 アイロニー研究における様々な見解

アイロニー研究の中で、伝統的な定義(「反対関係」と「異なる関係」)から発展した見解として挙げられるのが河上理論の反対関係理論である。河上理論では文字通りの意味は外観と呼ばれ、文字通りでない意味を実体として、外観と実体は反対関係にあるということが主張されている。例えば友達 B に裏切られた A が “B is a fine friend.” と言ったとする。この場合、A が本当に意図している事は “B is a mean friend.” であるため、外観と実体の間に反対関係が生じる。

Grice (1975) は会話の参加者は協調性を持って貢献しなければならないという協調の原理によってアイロニー解釈を提案している。協調の原理には人が会話をする上で守るべき四つの原則が存在する。まず、質の原則(発話を真実を伝えるものにする事)、量の原則(発話を必要かつ十分な情報量のあるものにする事)、関係の原則(発話を関連性のあるものにする事)、そして様態の原則(明確かつ簡潔に表現すること)である。Grice はアイロニーが言われるとき、話し手はわざと質の原則を破っているとしている。つまり話し手は表面上真実ではないことを言っていることになる。

(1) *A mother asked her son to clean up his messy room, but he was lost in comic books. After a while, she discovered that his room was still messy, and said to her son:*

This room is totally clean!

(Utsumi 2000)

これは、母親と子供のやり取りで、母親が息子に部屋を片付けるように言ったが、しばらくしても片付けようしない息子に対する発話である。この場合、母親が表面上言っている事は明らかに真実ではないので、質の原則が破られていることになる。

Grice の協調の原理に注目しながら丁寧さの重要性を主張したのが Leech の丁寧さの原理によるアイロニー解釈である。Leech によるとアイロニーとは丁寧さの原理を守るために表面上協調の原理が破られたときに起こる現象とされている。丁寧さの原理によって成り立つアイロニーを Leech は「もしどうしても相手の感情を傷つけない時には、少なくとも、丁寧さの原理には明白な形でそむくのではないようなやり方で行うこと。ただし、やり方は、聞き手の方が、あなたの述べたことで感情を害することになるようなポイントを含意を通じて理解することが可能であるようなものであること。」と説明している。

(2) A: Geoff has just borrowed your car.

B: Well, I like THAT!

(Leech 1983)

この発話では話し手 B は明らかに Geoff に車を貸したくないことが理解できる。しかし、実際表面上言われている事は Geoff に対して丁寧な言い方であり、協調の原理、ここでは質の原則が破られている。

アイロニー解釈の中でも目立つ存在で注目されている理論としてエコー言及理論が挙げられる。エコー言及理論は Sperber & Wilson によって提案され、アイロニーはエコーであるという新しい見解が主張された。エコーとは通常、先行発話に対する反応を示すためや、内容確認のために人が言った言葉の一部または全体の繰り返しのために使用される。

(3) A: I didn't like that meal.

B: You didn't LIKE it?

(4) A: The Browns are emigrating.

B: Emigrating?

(稲木 1997)

この場合、話し手 A が言ったことに対して B が反応する形で A の発話が繰り返されている。それに対してアイロニーの場合は、否定的な態度または意図を示すために先行発話など実際の発話から意見や思考が繰り返される。

(5) He: It's a lovely day for a picnic.

[They go for a picnic and it rains.]

She: It's a lovely day for a picnic, indeed.

(村越 2001)

この発話は状況から考えてアイロニーとしてみなされ、彼女は否定的な含意を伝えるために彼が言っていることを繰り返していることが理解できる。このように通常のエコーとアイロニーのエコーの違いはその使用目的にあると言える。

1.2 アイロニー解釈における反対関係の重要性：河上理論の立場から

河上理論では伝統的な定義は幅が広いため他の言語現象とアイロニーとが混同されてしまう傾向にありアイロニー解釈にとって重要ではあるが十分ではないとして、その問題解決が目指されている。その問題を検証するために具体的な例を見ていく。

(6) It's cold in here.—Please close the window. (含意)

(河上 1984)

この例では “It's cold in here.” の発話によって話し手が “Please close the window.” という意図を伝えようとしている。この場合、話し手は間接表現を使うことによって発話を行っているので、アイロニーとはみなされず間接発話行為として認識される。しかし、伝統的な説明の一つに従うならば、表面上の意味と含意との間に異なる関係が存在するた

め、アイロニーとみなされてしまう可能性がある。そのような曖昧さに対する問題解決のために、河上理論では外観（すなわち表面上の意味）と実体（つまり含意）との明らかな反対関係をアイロニーの定義としている。この外観と実体の間の反対関係は“dissimulation（偽装）”というアイロニー本来の意味と密接なつながりを持っている。この偽装を説明すると次のようになる。

(7) X is a fine friend.

(河上 1984)

(7)では話し手はXを良い友達だと思っていた。しかし、Xによる裏切りによって話し手の認識に大きな変化がもたらされ、話し手の中でXは意地悪な友達となる。この認識過程の中で外観と実体の間にギャップが確立されるため、話し手はXが良い友達であると見なすふりをする“偽装”を行っていることになる。実際知っているにもかかわらず無知を装うという、この話し手の行為はアイロニーの根本的な特徴だと言える。

河上理論において反対関係はアイロニー解釈にとって中心核である最も重要な要素とされているが、その反対関係に関連してアイロニーには“非対称性”と呼ばれる特徴が存在することについての河上の見解も興味深い。非対称性とは話し手の否定的な含意は存在するが、その逆である肯定的なものは無いということを意味する。

(8) (A) *The utterance issued when it is raining heavily;*

It's a lovely day, isn't it?

(B) *The utterance issued when the sun is shining brightly;*

It's a terrible day, isn't it?

(Kreuz and Glucksberg 1989)

非対称性の考えに従うと(8A)はアイロニーとして認められるが、(8B)は認められないことになる。一般に晴れた日は雨の日よりも好ましく思われる。つまり私たちは否定的な期待よりも肯定的な期待を持つ傾向にある。そのため、その期待が裏切られたとき否定的な含意を肯定的な外観に反映させ、結果としてアイロニーの現象が引き起こされる。そう考えると(8B)は好ましい状況で言われているためアイロニーとして受け取られにくいということになる。この非対称性に対して河上理論では両極性という見解を支持している。両極性とは話し手の否定的な含意だけでなく肯定的なものもアイロニーの要因になりえるということの意味する。河上理論では両極性を偽善と偽悪と呼ばれる二種類のアイロニーによって成立させている。偽善型(blame-by-praise)とは肯定的な外観と否定的な実体との組み合わせによって成り立つアイロニーである。対照的に、偽悪型(praise-by-blame)は否定的な外観と肯定的な実体という形で機能する。河上理論によると、(8A)が偽善型で(8B)が偽悪型とみなされる。

偽悪型が批判される原因の一つにアイロニーの主な目的が否定的な評価、つまり非難に基づいていることが挙げられる。そのため、人を非難する目的で使用されていない偽悪型をアイロニーとみなすことは適当ではないと言われている。しかし、Kreuz and Glucksbergによれば、発話(B)のような否定的な意見は、話し手の否定的な期待が存在

するのであればアイロニーとして機能する可能性があるとしている。もし、誤った天気予報のために話し手が天気が悪くなると予想していたらどうだろうか。この場合、話し手の天気に対する否定的な期待が存在していたら、偽善型と同様にその期待が外観に反映され、否定的な外観と肯定的な実体との間に反対関係が生まれることになる。またこの場合、話し手は“わざと反対の意味を表す表現で真意をほのめかす”表現方法を使用しているので、肯定的な含意を持つ発話(B)がアイロニーとみなされる可能性も十分にある。

偽悪型はアイロニーとしてあまり一般的ではないように思われるが、外観と実体の反対関係がある限りアイロニーの一部として認められるべきである。しかしながら、河上理論における両極性の呼び方が適切かどうかは議論の余地があるように思われる。発話(B)の話し手は肯定的な含意を伝えようとしているのであって、何かを賞賛 (praise) する目的はない。したがって、praise や blame よりも肯定的 (positive) や否定的 (negative) という言葉を使った方がより適切であるという改善すべき点も見られる。

1.3 エコー言及理論（エコーとアイロニーの関連性）

伝統的な定義に加えて、エコー言及理論と呼ばれる新しい見解が Sperber & Wilson によって提案された。彼らは反対関係理論だけではアイロニーの仕組みを明らかにする上で不十分であると主張した。Sperber & Wilson によって提案されたアイロニーを伴うエコー発話は通常のものとは異なり、アイロニー発話におけるエコーが否定的な態度を示す役割をする。その態度表明はアイロニーにおけるエコーと一般発話のエコーとの間に明白な違いをもたらしている。彼らの理論では、話し手の態度がアイロニーを引き起こすものとされている。

“An echoic utterance simultaneously expresses the speaker’s attitude or reaction to what was said or thought.”
(Wilson & Sperber 1992)

Sperber & Wilson にとって、エコーとは以前言われたことや考えられたことについての情報を伝えるためだけに使用されるのではなく、話し手の態度を示すためにも使用される。発話がアイロニーとみなされるときは、通常のエコー発話と違って話し手の態度は否定的なものだけに限定される。次の発話(a)と(b)は同じ発話内容で違った態度を示している。

(9) Peter: Ah, the old songs are still the best.

(a) Mary (fondly): Still the best.

(b) Mary (contemptuously): Still the best! (Wilson & Sperber 1992)

この例において、(a) と (b) での Mary の発話内容は同じである。しかし、態度の示し方がそれぞれ異なっている。(a) では Mary は Peter の考えに対して賛成の態度を示しているが、(b) では Peter の言っていることに対する非難を感じることができる。そのため、これらが同じエコー発話であっても、(a) はアイロニーでないことになり、(b) は否定的な態度のためにアイロニーと認識される。この例によって理解できる事は、エコー

発話が必ずしもアイロニーの要因になるとは限らないということである。発話がアイロニーと認識される場合、その発話はエコーである。しかし逆にたとえその発話がエコーとみなされたとしても、それは必ずしもアイロニーと判断される事はない。

Sperber & Wilson が提案するエコーは一般のエコーよりも厳密で幅広い。

“...there are echoic mentions of many different degrees and types. Some are immediate echoes and other delayed; some have their source in actual utterances, others in thoughts or opinions; some have a real source, others an imagined one; some are traceable back to a particular individual, whereas others have a vaguer origin. (Sperber & Wilson 1981)

それら様々なタイプのエコーの違いを比較するために下の例を考えてみる。

- (10) *Mary has lent some money to Bill on the understanding that she will get it back next day. She wonders aloud to Peter whether Bill will keep his word. Peter replies “Bill is an officer and gentleman,” thus reassuring her that Bill is trustworthy. However, the next day, Bill rudely denies all knowledge of his debt Mary. She says to Peter; An officer and a gentleman, indeed. (Wilson & Sperber 1992)*

この例で使用されているエコーは即座のエコーとして分類される。この種のエコーは明らかであり、その出所は実際の発話の中に現われるために比較的発見されやすい。したがって、このエコーの例は典型的なものと言えるだろう。それに比べて、次のエコーの例はその出所が明確ではなく、より複雑である。

- (11) 非常に短いレポートを書いてきた学生に対する教師の言葉；

This is a long paper! (篠田 1999)

このタイプのエコー発話は思考や期待に基づいている。そのため、出所を探すことがより困難である。この例の場合、期末レポートは適度の長さであるべきであるという一般の期待のために、その期待が表面上にエコーとして反映されていると解釈することが可能である。(篠田 1999)

このように認識しやすいものからそうでないものまで様々なエコーによってアイロニーは成立していると言われているが、その基準は幅広く複雑であるため更に検証される必要性があるように思われる。

2. 河上理論（反対関係理論）の妥当性と問題点（アイロニーとアイロニー的表現）

外観と実体の反対関係は河上理論においてアイロニーの本質とみなされているが、議論の余地があるとしてその見解に対する反論も少なくない。問題点の一つとして反対関係を持たないアイロニーの存在があり、反対関係だけではそれら全てのアイロニーを説明する上で不十分であると言われている。そこで河上理論では“アイロニー的表現”という枠を作ることによって、その問題解決に努めている。アイロニーは外観と実体の反対関係によって成立し、アイロニー的表現とは反対関係はないが外観と実体の間にズレがあり、アイロニーの要素を持つものとされている。

(12) *The utterance to a person who drives roughly and does not signal;*

- (A) I love people who do not signal. (アイロニー)
- (B) I love people who signal. (アイロニー的表現)
- (C) I hate people who do not signal. (含意)

(12) は荒い運転をしてシグナルを出さない人への発話である。発話(A)は含意と反対関係にあるためアイロニーとして認識される。それに対して、発話(B)と含意(C)の間には反対関係は成立せず、言われている事は真実であり、含意を異なる形で伝えようとしているため、結果として外観と実体の間にズレが生じることになる。

アイロニーとアイロニー的表現とを区別する河上の見解はアイロニーに明確な定義を与える手助けとなっている。問題はアイロニー的表現に関して詳しい説明がなされていないことである。河上理論における“アイロニーの要素”とは何なのかということも踏まえてアイロニー的表現は再分析される必要があるので、反対関係を持たないアイロニーとして挙げられた例を見ていきたいと思う。

(13) *The question asked someone who did an act unbecoming to his age;*

How old are you? (Kumon-Nakamura, et al. 1995)

これは年甲斐もない振る舞いをした人に対する発話である。通常この発話は相手の年齢を聞きだす役割を果たすために使用されるが、(13)の話し手はその機能を違った形で利用している。この場合、話し手は表面上聞き手の年齢を尋ねているが、文脈から考えると明らかに聞き手の無礼な態度に対する非難を伝えようとしていることが理解できる。したがって、反対関係は存在しないが、外観と実体の間に差が生じているため、アイロニー的表現とみなされる。

(14) *The utterance in a downpour;*

It seems to be raining. (Sperber & Wilson 1981)

(14)は土砂降りに遭った状況での発話である。この発話がアイロニーとみなされるためには、文字通りでない意味“*It is pouring.*”に対して、文字通りの意味である“*It is not*

raining at all.” が使用されなければならない。したがって、この発話は反対関係ではなく異なる関係によって成り立っていることになる。そのため、典型的なアイロニーよりアイロニーの程度は低いがアイロニー的表現として分類される。

(15) *The utterance toward a roommate who was not listening;*

Would you mind if I asked you to keep the window closed, please?

(Kumon-Nakamura, et al. 1995)

これは話を聞いていないルームメイトに対する発話である。ここでは、状況に対して明らかに丁寧すぎる表現が使用されることによって、話し手の否定的な含意が伝えられている。つまり、外観では丁寧な依頼が表現され、実体は非難ということである。結果として、反対関係は存在せず、形式上外観と実体との間にズレがあるため、この発話もまたアイロニー的表現と認められる。

(16) *The speech toward the kids who chipped in to buy a present for their father who is not good at expressing his real feelings. He said;*

You should not have spent money for something meaningless.

(河上 2004)

(16)の例は子供がお金を出し合って父親にプレゼントを買ったときの、照れた父親による発話である。これは、河上理論に従うと偽悪型、つまり外観は否定的で実体が肯定的であるタイプの発話として扱われることになる。この場合、父親の感謝の気持ちは素直に伝えられず、表面上言われていることと対立した形で表現されている。そのため、外観と実体にズレが生じることになり、アイロニー的表現と考えられる。

(17) 親が子に対して；

I'd appreciate it very much if you would shut the door. (新富 1997)

(17)の発話では、“Please close the door.”という言い方で十分な間柄にもかかわらず、更に丁寧な表現が使用されている。この発話がアイロニー的表現と認識される理由として文脈に対する丁寧すぎる表現が関係しているように思われる。その丁寧すぎる表現によってドアを閉めて欲しいという依頼以上のものを聞き手は感じることになり、話し手が伝えようとしていることと表面上言われている表現との間にズレが生まれ、アイロニー的表現へとつながる。

(18) 帰宅が遅い娘に対する母親の言葉；

「今ご帰宅ですか」

(新富 1997)

(18)の例もまた親の子に対する丁寧すぎる表現によって生み出されたアイロニー的表現である。母親の“今ご帰宅ですか。”という発話によって、娘の帰宅の遅さに対する否定

的な態度が示されている。この発話がアイロニーとみなされるためには、“遅い”という含意に対して“早かったわね”のように反対のことが言われなければならない。また、“今帰ったの。”ではなく、状況に対して丁寧すぎる表現が使用されることによって、否定的な含意が浮き彫りになる形でアイロニー的な要素が感じられる。

- (19) 「念入りにマスカラまでつけて、みんながわき目も振らずに仕事してるっていうのになえ。」
（西谷 2002）

(19)の例の場合、話し手は“念入りにマスカラまでつけて、みんながわき目も振らずに仕事してるっていうのになえ。”とすることによって、非難的な態度を間接的に表現している。この発話がアイロニーとして成立するためには、表面上言われていることが否定的な含意とは反対関係にある肯定的な意味を持たなければならない。つまり、話し手は聞き手の仕事に対する一生懸命さが足りないことを伝えようとしているので、“ホントに一生懸命仕事頑張ってるね”のような表現を使用すると、反対関係が成り立つためアイロニーとして認識されることになる。(19)の発話では、そのような反対関係は見られないので、アイロニー的表現として考えられることになる。

- (20) 5人で分けるはずだったピザの半分を一人で平らげた人へ
「本当におなか为空いているのね」
（谷口 2002）

この例もまたアイロニー的表現の一つとみなされる。話し手は“食べ過ぎだ”ということを知りながら聞き手に伝えたいので、この発話がアイロニーとして機能するためには、その反対である“少ししか食べなかったね。”のような表現が使用される必要がある。

- (21) A：私たちはみんなアガサがいなくなって淋しく思うわね。
B：うん、みんなビルがいなくなって淋しく思うでしょうね。（リーチ 1986）

(21)では、Bの発話がアイロニー的表現であると思われる。Aが“私たちはみんなアガサがいなくなって淋しく思うわね。”と言っているのに対して、Bはアガサのことには触れずに、代わりにビルのことを話題にしている。このBの意図的な間接的表現によってBのアガサに対する否定的態度が示されることになる。Bは表面上、“アガサがいなくても淋しく思わない。”という含意とズレのある表現を使用している。Bの発話がアイロニーとして成立するためには“ホントに淋しく思うでしょうね。”というような含意とは反対関係にあることが言われなければならない。

- (22) P：誰かがケーキのアイシングを食べてしまったわね。
C：ぼくじゃないよ。（リーチ 1986）

(22)の例では、話し手Pはアイシングを食べた犯人としてCが怪しいと思っていると仮定されている。“誰か”という表現をわざと使うことによって、直接的な“あなたがケー

キのアイシングを食べてしまった。”という表現には存在しない含意とPの発話の合意の間にズレが生み出されている。実際は知っているにもかかわらず無知を装うという、この行為は河上理論においてアイロニーの原義であるため、反対関係は存在しないがアイロニー的な要素は十分あるのでアイロニー的表現として分類される。

河上理論では皮肉はアイロニー的表現の一つとみなされている。しかし、アイロニーとアイロニー的表現が対応させられて扱われていることを考慮すると、アイロニーと似た意味を有する皮肉をアイロニー的表現の一部ではなく一つの孤立した表現方法として考える必要がある。更に皮肉的表現の枠も必要であると思われ、そこでアイロニーと皮肉、そしてアイロニー的表現と皮肉的表現とをそれぞれ対応させながら考察していきたいと思う。

皮肉とは「骨身にこたえるような鋭い非難。」または「遠まわしに意地悪く弱点などをつくこと。あてこすり。」などと言われている。アイロニーと同様に反対関係によって成立するがアイロニーが持つ偽悪型、つまり外観が否定的で実体は肯定的である形式は存在しない。それに対して、皮肉的表現とはアイロニー的表現のように反対関係はなく外観と実体との間にズレがあり、皮肉と同様に偽悪型は存在しないことになる。以上のことを踏まえて、いくつかの発話を見ていきたいと思う。

(23)から(27)の例は、電話をしているすぐそばで、うるさい音を立てて食器を並べる相手に対する発話である。

- (23) “Oh hi. I didn’t notice you were here.” ⇒アイロニー
「あらいたの、気付かなかったわ。」 ⇒皮肉

上の例の場合、うるさい音を立てていた相手に気付かないはずはなく、話し手は知らないふりをしているので、外観と実体の間に反対関係が生まれるためアイロニーと皮肉として認識される。

- (24) “Thanks a lot for banging the pots while I was on the phone.”
⇒アイロニー
「電話してる時にガチャガチャやってくれて本当にありがとう。」
⇒皮肉

この発話もまた典型的なアイロニーと皮肉の例として考えられる。ここで重要となる言葉が“Thanks a lot.”と“本当にありがとう。”である。話し手の相手に対する非難的な態度は明らかなので、含意は感謝の反対を意味することになる。したがって、反対関係が存在するのでアイロニーと皮肉とみなされる。

- (25) “Oh hi. You know, I couldn’t help noticing already that you were here.”
⇒アイロニー的表現
「あら。まあ、あなたがいることに気がつかない方が無理だけど。」
⇒皮肉的表現

(25)の例では話し手が言っているように、うるさい音を立てている人がいることに気がつかないほうが無理なので、話し手が言っている事は真実であり含意とは反対関係がなく、違った形で非難的な意図を表現しているのです、これらの発話はアイロニー的表現と皮肉的表現として分類されることになる。

(26) “Oh hi. Did you notice that I was trying to talk on the phone a second ago?”
⇒アイロニー的表現

「あら、ついさっき電話していたの知ってた？」

⇒皮肉的表現

この例も同様にアイロニー的表現と皮肉的表現として認識される。電話をしていたのを相手を知っていたのは状況から見て明らかであるので、この質問は文字通りの意味では文脈に対して不適切である。この発話は通常の質問、つまり情報を得るための機能ではなく、話し手の非難的態度を示すために使用されているため、アイロニー的表現や皮肉的表現とみなされるための非難的な含意と表面上の意味の間のズレが見られる。

(27) “Oh hi. Here’s another pot. You can bang it too!”

⇒アイロニー的表現

「あら、ここにもう1つコップがあるわよ。またガチャンってやれば。」

⇒皮肉的表現

この例の場合、“You can bang it too!”と「またガチャンってやれば。」の部分で相手が立てていたうるさい音に対する話し手の非難的意図が表現されている。しかし、例の(23)や(24)のようなアイロニーや皮肉として成立するための反対関係や偽装はみられないため、この発話はアイロニー的表現と皮肉的表現として扱われることになる。

河上による反対関係理論はアイロニーとアイロニー的表現を区別することによって明確な説明を与えたという点でアイロニー解釈において妥当性のある理論と考えてよいと思われるが、この章ではアイロニー的表現を更に分析することによって典型的なアイロニーとの違いを明確にすることを試みた。また皮肉をアイロニーと対応させることによって、アイロニー的表現の一部ではないことを明らかにすると共に、皮肉的表現という枠を提案した。

3. エコー言及理論における問題点

エコー言及理論の幅広いエコー基準はエコーを伴うあらゆる種類のアイロニーを説明することを可能にしている。しかしながら、エコー言及理論に対する反論も少なくない。次の発話は、非エコーとして挙げられた例である。

(28) Bob が B の車を無断で借りてしまった状況；

A: Bob has just borrowed your car.

B: Well, I like that. (瀬戸 1993)

(29) *Jesse said 'I'd be promoted before you' to his colleague Peter. This elicited the following reply;*

Thank you for informing me of your priceless opinion. (Utsumi 2000)

(30) 風の強い日に、風に吹かれて乱れた髪をして教室に入ってきた友人に対して；

You look perfect in your new hair style.

「あなたの新しい髪型はよく似合っているみたい。」 (村越 2001)

これらはすべてアイロニーがエコーではないということを証明するために挙げられた例である。例(28)ではBの態度は表面上の意味に反して非難を表していることは明らかなので、この発話はアイロニーということになる。しかしながら、Bの“I like that!”という発話からは、このエコーの出所が見られないのでエコー言及理論の反例の一つと考えられる。同様に例(29)と(30)もまた、それぞれアイロニーであるにもかかわらず不明瞭な出所のために挙げられた非エコーの例である。Sperber & Wilsonによって提案されたエコー言及理論はアイロニーに様々な解釈を与え、問題も解決する一方でその幅広い基準によって曖昧さが生じてしまうのではないかという議論もされている。

“The mention theory is forced to say that many ironies are merely *implicit* echoes—echoic mention of popular wisdom or received opinion—but it does not describe any criteria for deciding what is a possible implicit echo and what is not. If Swift’s proposal is considered an implicit echo, then surely almost anything goes.” (Clark & Gerrig 1984)

エコー言及理論はアイロニーの仕組みを明らかにする上で重要な役割を果たしている。しかしながら、Sperber & Wilsonの設定するエコー基準は思考や想像の域にまで達しているため、複雑でありアイロニーを説明する上で無理が生じている場合がある。したがって、アイロニー発話すべてをエコー発話と結び付けてしまう見解は議論の余地があると思われる。

まとめ

アイロニー解釈にとって反対関係理論（河上理論）をその中心的理論として述べてきたが、反対関係だけではあらゆるアイロニーを説明することはできないという反論も多く、他の様々な見解が提案されてきた。その中でもSperber & Wilsonのエコー言及理論はエコーとアイロニーを結びつけるという新しい考えによって注目され、様々なアイロニーを説明することを可能にした。しかし、Sperber & Wilsonによって設定されたエコー基準は幅広いため、曖昧性を引き起こしてしまう問題点があり、すべてのアイロニー＝エコーとしてしまう見解は議論の余地がある。したがって、アイロニーとアイロニー的表現

を区別することによって、その定義に明確さを与えている反対関係理論（河上理論）の立場からアイロニーを定義することが妥当であると思われる。しかしながら、アイロニー的表現はアイロニー周辺に位置する表現として扱われ、その内容には更に詳しい説明が必要であり、その改善すべき点について本稿では論じた。具体的には、河上理論のアイロニー的表現の一つとみなされていた皮肉に注目しアイロニーと対応させ、その違いについて考察した。アイロニーは偽善型と偽悪型の両方を持ち合わせていることから理解できるように、反対関係が重視されている。それに対して皮肉には反対関係は成立するが偽悪型が存在せず、否定的な含意が多く見られるという点でアイロニーとの違いが見られるだけでなく、反対関係を持たないアイロニー的表現とも異なるため、アイロニー的表現の中の一つとして皮肉を位置づけることは出来ないという結論に達した。

<参考文献>

- Clark, H. H., & Gerrig, R. J. 1984 On the Pretense Theory of Irony, *Journal of Experimental Psychology: General* 113, 121-126
- Grice, H. P. 1975 *Logic and Conversation*. In P. Cole & J. L. Morgan (Eds.), *Syntax and Semantics: Vol 3. Speech Acts* (pp.41-58). New York: Academic Press.
- 稲木昭子 1997 「エコ発話」『英語学論説資料』No.31 Part2 222-227
- 河上誓作 1984 「アイロニーの言語学的研究」『文の意味に関する基礎的研究』大阪大学文学部紀要 第24巻 173-278
- 1986 「認識の投影としての言語—トロープとアイロニーの場合」『英語青年』第132巻 第1号
- 1993 「発話行為とアイロニー」『英語青年』第139巻 第5号
- 1999 「アイロニーの言語学」『英語学論説資料』No.33 Part1 180-187
- 2004 「認識の投影としての言語—外観と実体の言語学—」『英語青年』第150巻 第6号 353-357
- 2009 「外観と実体の言語学—アイロニーとその周辺—」『日本エドワード・サピア協会研究年報』第23号 1-11
- Kreuz, R., & Glucksberg, S. 1989 How to be Sarcastic: The Echoic Reminder Theory of Verbal Irony, *Journal of Experimental Psychology: General* 118, 374-386
- Kumon-Nakamura, S., Glucksberg, S. and Brown, M. 1995 How about Another Piece of Pie: The Allusional Pretence Theory of Discourse Irony, *Journal of Experimental Psychology: General* 124, 3-21
- Leech, G. N. 1983 *Principles of Pragmatics*, London: Longman, 河上誓作 他 (訳) 1986 『語用論』研究社
- 森 英樹・南 佑亮 2004 『言葉のからくり—河上誓作教授退官記念論文集—』英宝社
- 村越行雄 2001 「アイロニー：伝統的なアプローチと最近のアプローチ (2)」『英語学論説資料』No.29, Part3-Extra 215-230

- 西谷健次 2002 「アイロニーの言語的特徴」『英語学論説資料』No.36, Part1 556-564
- 瀬戸賢一 1993 「エコーを伴わないアイロニーについて」『英語学論説資料』No.29, Part1 377-398
- 新富英雄 1997 「アイロニーとコンテクスト」『英語学論説資料』No.31, Part1 111-127
- 篠田 裕 1999 「アイロニー七不思議—ユーモアの不一致理論の観点から—」『英語学論説資料』No.33, Part2 329-337
- Sperber, D. 1984. Verbal Irony: Pretence or Echoic Mention?, *Journal of Experimental Psychology: General*, 113-1: pp.130-136
- Sperber, D. and Wilson, D. 1981 Irony and the Use-Mention Distinction, In P. Cole (Ed), *Radical Pragmatics*, 295-318. New York: Academic Press
- 谷口一美 2002 「アイロニーという名のカテゴリー—反対関係とエコーをつなぐもの—」『英語学論説資料』No.36, Part1, 251-257
- 辻 大介 1997 「アイロニーのコミュニケーション論」『東京大学社会情報研究紀要』5号: pp.91-127
- Utsumi, A. 2000 Verbal as Implicit Display of Ironic Environment: Distinguishing Ironic Utterance from Non-Irony, *Journal of Pragmatics* 32, 1777-1806
- Wilson, D. and Sperber, D. 1992 *On Verbal Irony*, *Lingua* 87, 53-76

久留米大学文学部紀要

国際文化学科編

第 28 号

目 次

- 『クラレル』における信仰……………道 永 周 三 (1)
- 韓国における近世都城史研究の動向
—都城空間をめぐる諸問題—……………桑 野 栄 治 (17)
- 海風社関連資料総合目録及び解題……………与 小 田 隆 一 (33)
- On *Moral Tales and Practical Education* :
Maria Edgeworth's Method of Education and
Her Educational Thought……………Naoko SAKAI (55)
Takeo IIDA
- 方言文学としての『悪人』……………崎 村 弘 文 (85)
- 反対関係理論 (河上理論) におけるアイロニー的表現の役割と重要性
……………安 藤 裕 介 (97)
権 藤 磨 由
- 朝鮮明宗代の対明遙拝儀礼
—威臣政治と王権—……………桑 野 栄 治 (111)